

民主島根

2018年
7.15
第1315号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

島根原発3号機 適合性申請は原発稼働の一步

事前了解 “了承するな”

県議会 尾村県議が質疑、反対討論に立つ

島根県議会は6日の本会議で「島根原発3号機の新規制基準適合性申請に係る事前了解願い」を自民、公明、民主県民クラブの一部の議員等の賛成で了承しました。日本共産党の尾村利成県議が県議団を代表して事前了解願いを了承し、了承しないことなどを求めた請願・陳情を不採択とした総務委員長報告に対し、質疑と反対討論を行いました。(尾村県議の質疑討論は2面参照)



(写真上)雨の中、議会報告する尾村、大国両県議ら(6日、県庁前)
(写真左下)藤原副知事と懇談する大平前衆院議員ら(6月28日、県庁)



大国県議の「一問一答」

見とは真反対の審査結果は県政への不信を広げ

■原発の賛否を県民に問うべき

日本共産党の大国陽介県議は6月27日、一問一答質問に立ち、県知事や県執行部をたどしました。大国県議は、中国電力が新規稼働を狙う島根原発3号機の国への審査申請の事前了解の判断にあたり、「県政世論調査などで原発稼働の賛否を県民に問いかけ、県政に反映

■立地自治体並み安全協定締結を

島根原発30キロ圏の周辺自治体は、原発事故の際、住民の避難に責任を持たなければなりません。が、原発稼働に対する「同意権」が与えられていません。そのため、周辺自治体は、松江市と同様の権限の付与を求めています。

■災害時住宅再建制度の恒久化を

4月9日に発生した県西部地震で、大田市を中心に一部損壊の被害が相次ぎ、県は大田市の求めに応じ、全壊と大規模半壊に限っていた助成制度の対象を拡大しました。大国県議は、被災地から今回の決断を評価するとの声が寄せられていると述べ、「いつどこで起きるか分からない災害への備えとして支援制度の恒

鼓動

今年、絵本画家いわさきちひろの生誕100年にあたる。ちひろの作品と出会いは高校3年の冬だった。仲の良い友だちが急きよ不治の病いで入院し、そのお見舞いの際に買いたった本が、ちひろの絵本だった。もう半世紀も前のこと。本屋の店先に置いてあった絵本の表紙が、ちひろの何たるかも知らなかった高校生の眼に留った。女の子の幼いながらも凛とした瞳には、「どんな境遇にあっても私は生きぬく」と訴えていた。この子の意志を病床の友にも持つてほしいと率直に思った。その後、ベトナム戦争が激しさを増す中で、戦争の炎が燃え盛る中でも、しっかりと生き抜く子どもの姿を描いた絵本「戦火のなかの子どもたち」を出版。ちひろと一緒にベトナム反戦街頭展を開いた、当時の若手絵本作家の西村繁男さんは「ちひろさんの絵の中の子どもたちは、強い意思を持ったまなざしで、道行く人たちに無言で訴えていた」と振り返る。実際、戦火の子どもたちは、強い怯えと不安に包まれている。しかし、ちひろはその子どもたちのまなざしに、自らの思いを込めたのだ。ちひろ美術館首席学芸員の竹内祐子さんは「ちひろは」少女と向き合い、痛みを受け止め、悼み、癒し……。さまざまなものを昇華させて、深遠なまなざしの少女が生まれた」と指摘する。見舞った友は、それから10年後に亡くなった。きつと「最期まで生き抜いて」と訴える少女の瞳を見つめながら、ちひろの絵本を胸に逝ったにちがいない。今、松本市の安曇野ちひろ美術館では「生誕100年展」が開かれている。(吉)

不安視する意見が多数あると指摘し、県民合意がないまま判断してはならないと強調しました。溝口知事は「安全対策協議会や原子力安全顧問会議などの代表の方から意見を聞くのも一つのやり方」と答えるに留まり、県民に賛否を直接問うかける調査は行わない考えを示しました。また、大国氏は「知事の判断基準の中に(危険な原発から)県民の命と安全を守るという理念は入っているのか」と迫り、明確な答弁を求めましたが、溝口知事は明言を避けました。また、大国氏は「核廃棄物の処理方法など核燃料サイクルは破たんしている。原発は未完成の技術であることを直視すべき」と指摘。県民の理解と合意は得られておらず、実効性ある避難計画が確立する見通しもないことなどをあげ、「原発稼働の条件はどこにもない。今こそ『原発ゼロの島根』を決断すべきだ」と力を込めました。

の総点検とブロック塀の耐震化促進など安全対策の充実を求めました。真田晃宏土木部長は「危険性が確認された場合は速やかな付近通行者への注意表示と塀の補修や撤去をホームページ等で呼びかけている」と答弁。「建築基準法を所管する自治体と連携したパトロールの実施や撤去・改修への助成など様々な面から安全対策の充実を検討したい」と応じました。